【資料2-2】

内閣府における
AIガバナンス政策動向

令和８年10月30日

内閣府　人工知能政策推進室

人工知能関連技術の研究開発及び活用の推進に関する法律（AI法）の概要

成立：令和７年５月28日　　一部施行：令和７年６月４日　　全面施行：令和７年９月１日

法律の必要性

日本のAI開発・活用は遅れている。

多くの国民がAIに対して不安。

イノベーションを促進しつつ、リスクに対応するため、既存の刑法や個別の業法等に加え、新たな法律が必要。

法律の概要

目的	**国民生活**の向上、**国民経済**の発展
基本理念	経済社会及び**安全保障上重要** ➡ 研究開発力の保持、**国際競争力**の向上 基礎研究から活用まで総合的・計画的に推進 **適正な研究開発・活用**のため**透明性**の確保等　　**国際協力において主導的役割**
AI戦略本部	**本部長：内閣総理大臣　構成員：全ての国務大臣** 関係行政機関等に対して必要な協力を求める
AI基本計画	研究開発・活用の推進のために**政府が実施すべき施策の基本的な方針**等
基本的施策	**研究開発**の推進、**施設等の整備・共用**の促進　　**人材確保、教育振興** **国際的な規範策定**への参画　　**適正性**のための**国際規範に即した指針**の整備 **情報収集**、権利利益を侵害する**事案の分析・対策検討、調査** **事業者等への指導・助言・情報提供**
責務	国、地方公共団体、研究開発機関、事業者、国民の責務、関係者間の連携強化 **事業者は国等の施策に協力しなければならない**
附則	**見直し規定**（必要な場合は所要の措置）

世界のモデルとなる法制度を構築

国際指針に則り、イノベーション促進とリスク対応を両立。最もAIを開発・活用しやすい国へ。

第Ⅱ期人工知能基本計画（概要）
～日本ＡＸ、より強く、より豊かに～

基本構想

◎急伸するエージェント型ＡＩに適応し、計算資源や電力から、制度・政策まで日本のＡＩ実装能力を抜本強化
◎ＡＩを前提として意思決定や業務の進め方を根底から見直す「ＡＩトランスフォーメーション」（ＡＸ）を推進
◎人が人として創造すべき価値を探求し、「人間力」を増進しながら、「人とＡＩが協働する社会」を率先して実現
◎「信頼できるＡＩ」で社会全体を駆動し、課題解決と国力強化を探求、日本独自の価値を創出

４つの原則

- イノベーション促進とリスク対応の両立
- アジャイル（柔軟かつ迅速）な対応
- 挑戦と学習
- 内外一体での政策推進

４つの基本的な方針に基づく施策　**政府一丸でAX推進に必要な体制を構築、あらゆる制度や運用を先導見直し**

１．ＡＩ利活用の加速的推進 「ＡＩを使う」 ：エージェント型ＡＩ等の積極適用、政府における率先導入

- **政府・自治体でのＡＩの徹底した利活用** ガバメントＡＩ「源内」の進化と普及、地方の伸び代を成長に転換（地域ＡＸ）
- **ＡＩ利活用促進による社会課題解決、新事業創出** バーティカルＡＩ・フィジカルＡＩ中心に社会実装加速
- **データ戦略、更なるＡＩ利活用に向けた仕組みづくり** 政府・準公共・産業分野でデータ連携基盤構築

利活用と技術革新の好循環

２．ＡＩ開発力の戦略的強化 「ＡＩを創る」 ：ＡＩ実装能力を高め、「ＡＩ主権」を確保する

- **ＡＩ研究開発・利用基盤の拡充・高度化** 国家基盤として計算資源やデータ、安定した電力供給を確保
- **日本国内のＡＩ開発力の強化** データセット創出、内外トップ人材確保、モデル開発高度化、評価基盤・テストベッド整備
- **信頼できるＡＩ基盤モデル等の開発** 日本の文化等を踏まえたＡＩ開発・評価、マルチモーダル基盤モデル開発推進
- **日本の勝ち筋の追求** バーティカルＡＩ（領域別戦略）、フィジカルＡＩ（ＡＩロボティクス、自動運転）、AI for Science

３．ＡＩガバナンスの主導 「ＡＩの信頼性を高める」 ：ＡＩエコシステムにおける「信頼」の構築で世界をリード

- **責任あるアジャイル・ガバナンスの実現** AI法を含めた制度等の能動的かつ不断の見直し、Project YATA-Shield
- **ＡＳＥＡＮ等グローバルサウス諸国を含めた国際協調** AISI機能強化、信頼できるＡＩ共創に向けＡＩサミットの早期日本開催

４．ＡＩ社会に向けた継続的変革 「ＡＩと協働する」 ：人が意思決定への責任を持ちながら、ＡＸで日本を駆動

- **ＡＩを前提とした産業構造・雇用環境の構築** 中小企業、地方含むＡＸ推進（取組可視化等）、雇用への影響を調査研究
- **ＡＩ社会における制度・枠組みの検討・実証** 規制・制度改革、人とＡＩの責任関係、知財保護・利活用につながる透明性確保
- **ＡＩ時代の人材の育成・確保** ＡＩ実装人材育成・確保、全ての国民のＡＩに関するリテラシー向上、リ・スキリング支援
- **ＡＩ時代における人間力の向上** 創造力、批判的思考、判断責任など人間力向上、人とＡＩの役割分担の探究

➡ 本基本計画は当面毎年変更、適切なベンチマーク（KPI等）を設定しモニタリング

■ ＡＩ技術の進展

- ＡＩは業務を支援するツールから、意思決定・実行を担う主体へと進化。
- **エージェント型ＡＩが**急速に伸長、世界各国で、産業・安全保障含めた**広範な分野で業務全体を自律的に回す基盤に**。
- **エージェント型ＡＩをいかに社会に実装していくのか、その在り方は経済力、防衛力、技術力といった国力に直結**。

■ 我が国の現状と課題

- 世界では、エージェント型ＡＩを始め先端技術に関する利活用と開発がますます加速。
- 日本でも、現場実務でのＡＩ利活用は加速、開発投資も伸長しているが、**組織全体や中小企業、地域での活用に課題。**
- **計算資源、電力、人材、データ、制御・管理や制度・政策まで、総体としてのＡＩ実装能力強化**が必要。

■ 日本の勝ち筋

- 我が国が持つ現場の力をＡＩの実装能力としていくために、**「バーティカルＡＩ」、「フィジカルＡＩ」にＡＩ戦略の重点**を置き、**我が国の課題を解決、独自の価値**を生み、**世界の課題解決にも寄与**。
- ＡＩエコシステム全体の中で、**戦略的自律性及び戦略的不可欠性を確保し、開かれた「ＡＩ主権」を確立**。同志国等と連携しつつ、戦略的領域において自律性を強化し、耐遮断性・運用能力を確保。現場やハードウェアの力で優位性を創出。
- 産業や行政、国民生活の**課題を解決、国力を強化するため、**あらゆる組織で、ＡＩを前提として意思決定や業務の進め方を見直す**「ＡＩトランスフォーメーション（AX）」を推進**。

■ 複雑化・深刻化するリスクへの対応

- ＡＩがもたらすリスクは、エージェント型ＡＩを始め技術革新が進む中で、複雑化かつ深刻化。
- ＡＩ法等の**「制度による対応」に加え、「技術による対応」、「組織管理による対応」に統合的に取り組み**ながら、「信頼できるＡＩ」体現のため、**「責任あるアジャイル・ガバナンス」に能動的に取り組む**。

■ 社会全体でのＡＸに向けて

- **制度や政策についてＡＩを前提として再構築することを含めてＡＩの実装能力を抜本的に強化し、エージェント型ＡＩについても日本の「信頼性」を再現する。**
- **人と社会との関係を再定義**し、**判断責任を始め人が創造すべき価値は何かを探究**、人が人として生きるための社会の枠組みの構築や**「人間力」の増進に率先して取り組む**。
- **「信頼できるＡＩ」で日本を駆動するＡＸに社会を挙げて取り組む。**

（参考）ＡＩ施策の方向性：ＡＩ利活用の加速的推進（ＡＩを使う）

主な拡充内容

- **エージェント型ＡＩの導入**や国内で開発されたＡＩモデルの積極活用も含めた**ガバメントＡＩを推進**。**「源内」のオープンソース化の取組を通じて自治体のＡＩ導入支援**を進める。
- 優良なユースケースの横展開などにより、**ＡＩによる自治体業務の構造変革を目指す**。
- 地方の伸び代を成長に転換するため、**中堅・中小企業におけるＡＩ導入**、ＡＩを活用した**地域密着型の新規事業の立ち上げ**や**先進的な地域課題解決プロジェクトの創出を支援**。
- **医療、金融、教育、防災等**の各分野において、エージェント型ＡＩも含めた**バーティカルＡＩ・フィジカルＡＩを核としたＡＩ開発・実証・導入・社会実装を促進**。バーティカルＡＩとして**領域別戦略策定**。官民で投資集中。
- **防衛力の変革**に向けて、**データとＡＩを最大限に活用する**。
- 地理空間情報のデータ連携・流通環境の構築を進め、**「ジオＡＩ」を推進**。
- **政府・準公共・産業・研究分野**における各データについて、**データ連携基盤を構築**。
- **データ精製技術に関するミドルウェア**や、**データスペース技術の研究開発・実証を支援**。データ精製・データ連携を中核的に担う国内プラットフォームサービスを育成。
- 社会全体のＡＸを推進する観点から、**府省庁横断で、法制度・ガイドライン・運用ルールについて抜本的な見直し**を行う。

（参考）ＡＩ施策の方向性：ＡＩ開発力の戦略的強化（ＡＩを創る）

主な拡充内容

- 国内で開発・製造される**ＡＩインフラ**（データ、地域共生にも配慮したデータセンター、計算基盤、半導体）**の生産能力拡大及び供給能力拡大を推進**し、**サプライチェーンを強化**。
- 信頼性確保にも留意しつつ、トップ人材を含めた**ＡＩ研究者・開発者を確保**、**ＡＩ駆動型の研究**に積極的に取り組むことができるよう**支援制度を充実**。
- 「AI for Scienceの推進に向けた基本的な戦略方針」を踏まえ、AIの基礎研究を含め新たな挑戦や国際連携等を通じた**先導的研究**、**研究インフラの構築**、**「オープン・アンド・クローズ戦略」を踏まえた研究データの戦略的管理・利活用**等、**AI for Scienceの取組を推進。**
- 我が国独自の価値を持ち、国際競争力あるＡＩシステムの創出も視野に入れ、**暗黙知が豊富な現場へのバーティカルＡＩの開発・実装・輸出を促進**。
- 産業用ロボットや自動車産業で培った我が国サプライチェーンの強みを活用し、**多用途ロボットの国産ロボットメーカーやシステム・インテグレーターの機能の強化・育成**。
- 日本が世界を主導できるよう、官民双方においてＡＩロボティクスの社会実装を含めた**フィジカルＡＩの研究開発及び実証を戦略的かつ統合的に促進**。
- より高度な**自動運転技術導入に向けた研究開発実証及び本格的普及**に向けた取組を推進。

（参考）ＡＩ施策の方向性：ＡＩガバナンスの主導（ＡＩの信頼性を高める）

主な拡充内容

- ＡＩ法第16条に基づく調査研究等をより機動的に運用。複雑化かつ深刻化するリスクにより実効的に対応するため、**ＡＩ法を含めた制度等を能動的かつ不断に見直す**。
- 国民の権利保護や透明性・公正性の確保するため、行政事務におけるＡＩ利活用時の留意点等を整理するほか、**広くＡＩ利活用に伴う権利侵害に関する法的整理なども含め各種ガイドライン等を整備**。
- **人工知能戦略本部にＡＩ関連の知見を集約**し、**ＡＩ関連の制度や指針等の点検・見直しを促す仕組みを構築**。
- **「Project YATA-Shield」に基づき、我が国のサイバーセキュリティを確保**。重要インフラ事業者等への対応と脆弱性の発見・修正等に関する対応を実施。
- **高性能ＡＩを活用した取組の強化も含めサイバー対処能力を不断に強化**。
- **ＡＩＳＩを中心として**、ＡＩモデルの評価、トレーサビリティ、ガードレール等の技術的制御、危機時の情報共有などを可能とする**技術的評価能力を確立・強化**。評価結果が制度・運用改善に接続される仕組みを整備。
- **ＡＩに関する標準化等に関してＡＩＳＩ国際ネットワーク等を活用**によるＡＩガバナンスの構築を主導。各国と連携し、**高性能ＡＩのガバナンスに関する国際的な議論**を主導。
- 日本が世界のＡＩイノベーションの結節点となるよう、**ＡＩサミットを早期に日本で開催**し、ＡＩでの国際的な協調・協力モデルを主導。

（参考）ＡＩ施策の方向性：ＡＩ社会に向けた継続的変革（ＡＩと協働する）

主な拡充内容

- **中堅・中小企業や地方部を含め、各産業においてＡＸを進め、**ＡＩを融合させた新たな産業構造を生み出す。
- エージェント型ＡＩも前提に、ＡＩ利活用時における権利侵害や損害が発生した場合などの**責任分界について、継続的に検討**。
- **適切な知的財産の保護と利活用につながる透明性を確保。コンテンツホルダーへの対価還元**等を推進。
- ＡＩが働き方や**雇用に与える影響**を踏まえて、**リ・スキリングの推進を含めた包括的な対策**に能動的に取り組む。
- **初等中等教育段階の生成ＡＩの利活用に関するガイドライン改訂。教育分野に特化したＡＩの実証研究**等を通じ、学校教育における安全・安心で主体的なＡＩの利活用を推進。
- **ＡＸを進める上で中核となるＡＩ実装人材**など、**ＡＩ人材を質・量の両面から育成・確保**。
- 全ての国民がＡＩ適正活用人材となれるよう、教職員に向けた研修機会の提供の充実等を通じ、**初等中等教育段階での情報活用能力を抜本的向上**。
- 人とＡＩの協働による新たな社会を追求するため、ＡＩの普及に伴う心理的影響、社会構造の変化も踏まえつつ、創造力や思考力を始めとした、**判断責任を果たす人的主体性を中核に「人間力」向上**を図る。

ＡＩのもたらしうるリスク・社会課題等

AIは効率性や利便性を大きく向上させ、社会課題解決、新しい科学的発見、新市場創造、人間の創造性強化などが期待される一方で技術的、社会的に様々なリスクが存在。特に、令和6年に入り、AIの性能が著しく向上し、新たなリスクが顕在化するとともに、社会実装も加速し、AIが市民生活や社会の構造に与える影響も多角化。

国際専門家パネルによる「International AI Safety Report 2026」※のAIリスクの分類

Misuse（悪用）	Malfunctions（予期しない挙動）	Systemic risks（社会的リスク）
• 犯罪・ AI生成コンテンツ：詐欺、恐喝、なりすまし、非同意の性的画像等への悪用 • 影響力工作・情報操作：AIによる人の信念・判断の操作 • サイバー攻撃：脆弱性発見、悪性コード生成、サイバー攻撃への利用 • 生物・化学リスク：病原体・化学兵器の開発等への利用	• 信頼性：虚偽情報、誤ったコード、誤解を招く助言など • 制御喪失：AIが人間の制御を離れ、停止・制御回復が困難になる可能性	• 人間の自律性へのリスク：AIへの過度な依存、批判的思考への影響 等

※Yoshua Bengio氏率いる国際専門家パネルによる執筆・英国AISI編 出典：International AI Safety Report 2026
※国際専門家パネルのレポートでは、「これらのカテゴリーは**網羅的ではなく、また相互排他的でもない。**」との留保もあり。

◆その他に社会的に問題となっている・懸念されている事象

- **差別・公平性の課題**：アルゴリズムによる不当な順位付け、判定等の問題
- **開発の動向**：RSI（再帰的自己改善）の実現等も含めた今後の開発の動向

人工知能戦略専門調査会 制度の在り方検討WG

＜目的＞

高性能AIモデルの登場により、AIを活用したシステムが悪用され、または予期せぬ挙動を生じ、その結果として経済社会システムに深刻な影響を与え、国民の生命・身体等に重大な危険を生じる事態が発生することへの懸念が高まっている。

こうしたAIに関するリスクについては、諸外国においても関心が高まっており、高性能AIモデルの開発・提供を行う事業者に対する法規制や、業界主導による自主規制の枠組みを整備する事例もみられるところ、我が国においても、**既存のAIに関する法制度の見直しを含め、制度の在り方を議論・検討することを目的として、「制度の在り方検討WG」を人工知能戦略専門調査会※の下に設置する。**

＜構成員＞※敬称略

○ 宍戸　常寿　　東京大学大学院法学政治学研究科 教授

○ 生貝　直人　　一橋大学大学院法学研究科　教授

○ 岡崎　直観　　東京科学大学情報理工学院　教授

○ 岡田　淳　　森・濱田松本法律事務所　弁護士

○ 岡田　陽介　　株式会社ABEJA 代表取締役CEO／日本ディープラーニング協会 副理事長

○ 殿村　桂司　　長島・大野・常松法律事務所　弁護士

○ 永沼　美保　　一般社団法人日本経済団体連合会デジタルエコノミー推進委員会 国際戦略WG主査／日本電気株式会社 主席プロフェッショナル

※人工知能関連技術の研究開発及び活用の推進に関する法律（令和７年法律第53号）第28条及び人工知能戦略本部令（令和７年政令第281号）第１条に基づき、人工知能戦略本部に設置される専門調査会をいう。